

野生動物がおこす事件にあふれる現代。身のまわりの野生動物たちに目をむけてみよう。

動物たちのビックリ事件簿

全4巻

小学初級～

写真・文 宮崎 学 AB判36頁、オールカラー・総ルビ
揃本体9,600円＋税 各巻本体2,400円＋税



●著者プロフィール

1949年生まれ。1972年より、プロ写真家として動物写真を撮り続ける。現在、「自然と人間」をテーマに、社会的視点に立った「自然界の報道写真家」として活躍中。

最近、野生動物がおこす事件を見聞きすることがふえてきた。クマが町や里に出没したり、イノシシ、シカ、サルが農作物を食いあらしたり、人をおそってケガをおわせたり、外来動物が野山で繁殖して生態系をこわしたり…。現代は、まるで人間が野生動物に包囲されているかのよう。

このシリーズでは、そんな現代の野生動物の知られざる暮らしや生態、さまざまな環境に生きるたくましさや、ロボットカメラでとらえた写真と物語性ある文章で描く。活動開始40年を迎えた動物カメラマン・宮崎学の記念的出版。

組見本（第3巻より）



3日後、カメラのチェックにいくと、そこにはしっかりと犯人が登録されていました。なんと、大きなツキノワグマが写っているではありませんか。いくら夜中とはいえ、すぐ近くに墓場がある場所に、こんなにとやうとやうとやうと、おどろきです。ほかの墓場もチェックすると、時間をかえて、ハクビシンも写っていることがわかりました。



さらにおどろいたのは、すっかり明るくなった朝に、サルがきて墓場をぬすんでいたことです。カメラに写ったそのすがすがは、まるでお供えしているみたいで、思わず笑ってしまいました。
同時に、ボクはすっかり考えさせられました。人間にとってはお供えものでも、それは動物からみれば、「えき」以外のものでもありません。こうして、人間の都合で置いたり、すてたりしている食べものが、たくさんの動物たちをよびよせていたのです。
まずは、そのことについて、もう一度、身のまわりの生活をみなおして見る必要がありそうです。そんなことを、秋の夜長に、友だちと語りあったのです。

おもな内容

第1巻 巣づくりにハンガーをつかうカラス、森のリスがみせた宙返り、キツツキと木の意外なかかわり、木の皮をはぎにくるツキノワグマなど

第2巻 夜な夜なトイレにやってくるシカ、カメラにいたずらするツキノワグマ、猛獣の声の主・キョン、都会にすみつくクマネズミなど。

第3巻 お墓のお供えをめすむサル、おなかを上にしてねむるムササビ、森にトンネルをほるヒミズとそれを利用するネズミたちなど。

第4巻 駅で大群になってねむるカラス、人家のすぐ近くでえさをたべるツキノワグマ、「神さまの使い」オコジョの正体、雪原の足跡の主探しなど。

●教科との関連

小学校生活

小学校理科

3年「身近な自然の観察」

4年「季節と生き物」

6年「生き物と環境」など。

農文協